

HDM推進会（第 49回）／ごみゼロネット推進会（第 71回）議事録

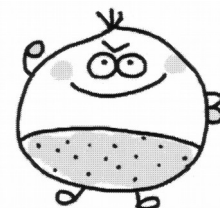
開催日： 2014 年 (H26 年) 4 月 9 日 (水) 10:00 ～ 11:50

場 所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 加藤、大橋、杉本、川村、林、山本、桐生（作成）

議 題：

本日は加藤氏作成提供の資料①「4 月ごみ・生ごみの動き」1 頁と、②「府中市・調布市



共同処理による生ゴミ資源化に向けた検討」2 頁と、ごみ対策課より 4/8 の HDM 推進検討会（定期会合の最終回）に説明を受けた「小金井市大型ごみ減量化処理補助交付要綱」他について討議した。以下、代表的な議事・発言内容のみを記す。

1. 4 月ごみ・生ごみの動き

- (1) 小金井市：①「ごみ処理基本計画スケジュール案」問題点 向こう 10 年間の基本計画を作る大仕事にしては、7 月の「市民アンケート」から翌年 1 月のパブリックコメントまでの短期間に数回の会合で纏めようとしている。他の自治体では少なくとも 2 年間くらいはかけており、当市はあまりに拙速。
- ②「ごみ減量等審議会」任期終了に伴い、市民公募あり。5 名の枠あり。当会より誰か出て欲しい。（川村氏が「検討します」とのこと。大いに期待）

(2) HDM 推進検討会：

①「小金井市大型ごみ減量化処理補助交付要綱」では「4/5 補助で上限 100 万円」とあり、200 万円台の HDM 方式は地域団体では採用不可能。「市の公共用地は提供しない」「機器の保守、修繕、運営管理は団体が行う」では市側には経済的メリットがあっても市民団体側には何のメリットもなく、「処理残渣は焼却処理」では電力で生ゴミを乾燥してから焼却しているだけのことで、何を考えているのかこの施策が「ごみ処理カルタ」と並ぶ本年度の二大施策とは小金井市のごみ処理の本気度を疑う。「応募者は必ずいる」との市の自信はできレースでも用意しているのか。

②昨 4/8 の会合を以てごみ対策課との定期会合は終結した。当会側より 1 トン / 日の具体的企画を出して「場所がない」と拒否され、200 kg / 日の自動攪拌プラントを提案して「ジャノメ跡地では収容スペースがない」と拒否され、市側の提案で 25 kg / 日の「大型ごみ減量化処理装置」を検討中に提案者が僅か 1 年間の在任で人事異動して去って現在に至った。その間およそ 3 年半。役所がやりたくない事業を如何に引き延ばし作戦で潰すかの実例につきあわされた徒労感は深い。なまごみ分別収集と HDM に本気で取り組む市長が登場しない限り、事態の進展は望めない。

(3) 三市共同処理関連：省略

- (4) 府中市・調布市の生ゴミ資源化共同処理の基礎調査報告：嫌気性微生物による生ゴミのメタン発酵処理。HDM 処理は好気性微生物による生ゴミの消滅処理。前者は生ゴミがメタンガスという資源として活用できる絶大なメリットがある。問題は高額で高度な運転技術が必要で、残渣の処理も問題が多い。後者はその対極にある。分別収集が原則等の共通点が多い。両市のこの計画は素晴らしく意欲的で先進的である。これほどの先端技術に取り組む自治体に隣接しているのに、小金井市の現状は嘆かわしい。黄表紙の分厚い詳細な企画書を拝見した。高度で濃密な洗練された内容である。

2. 自由討議

- 小金井市は三市共同処理が成立したので、近々「ごみ非常事態宣言」を解除する。市民の意識も後退するおそれがないか。
- 共同処理で 50 億円近くの金を使うのに、一回も市民説明会すらやらないのは犯罪行為ではないか。
- 今後は日野市の市民団体から「小金井市は分別収集してごみ量を減らせ」といった形で我々の主張を代弁してもらおう外圧方式に望みをかけたい。

以上

次回打合せ 5月14日 (水) 10:00~12:00 コミュニティサロン・はけ
1/1